

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

東北大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のうち、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「豊かな教養と人間性を備え、「科学する心」を持って知的探求を行うことができる人材を養成する」としていることについて、学生に科学的知識を習得させるため、従来の物理学、化学、生物学、地学に分かれた理科実験ではなく、物理学、化学、生物学、地学を融合させた理科実験を「自然科学総合実験」として設定したことにより、学生のアンケート結果において、従来型の理科実験と比較すると、実験に興味を持った学生が増加するなど、学生の学問への意欲の向上につながったことは、「科学する心」を持った人材の養成が図られている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「学際領域を含む多様な課題の把握と課題解決に必要な手法の開拓を実践できる能力を持つ人材を養成するために、高度な専門的知識を修得させる教育カリキュラムの充実を図る」としていることについて、若手研究者を養成するために国際

高等研究教育院、実践的教育を行うための高度技術経営塾を設置し、また、教育改革プログラムに採択された「理学の実践と応用を志す先端的科学者の養成」等の6プログラムを通じ、教育カリキュラムの充実を進めていることは、大学院教育の質の向上が図られている点で、優れていると判断される。

- 中期計画「自らの問題意識に基づいて新たな課題を設定し、その解決を目指す研究計画の立案・実施・総括のできる人材及び知の継承と発展を担い得る世界的リーダーを養成できる柔軟かつ高度な大学院教育システムの充実を図る」について、平成19年度に採択された六つの大学院教育改革支援プログラムに加え、平成20年度には「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」「情報リテラシー教育専門職養成プログラム」が採択され、各研究科の特性に応じた世界的リーダーを養成できる高度な大学院教育システムの充実が図られている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「大学院課程進学に必要な学力を修得できるようカリキュラムの充実と改善を図る」について、平成20年度より、電子ポートフォリオによる指導をスタートさせた。これにより、4年間における学習の目標設定とその達成状況の確認等の様々な情報を包含することができる。その取組が平成20年度に質の高い大学教育推進プログラムに採択されている点で、優れていると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「自らの問題意識に基づいて新たな課題を設定し、その解決を目指す研究計画の立案・実施・総括のできる人材及び知の継承と発展を担い得る世界的リーダーを養成できる柔軟かつ高度な大学院教育システムの充実を図る」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）
- 中期計画「課題の迅速な把握、自らの見解を論理的思考に基づいて正確に表現できる能力を養うために、基礎的な専門知識や外国語の修得、情報を効果的に活用する能力の向上に重点を置いた教育カリキュラムを充実させる」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、平成20年度に質の高い大学教育推進プログラム「リサーチマインドを育む医学教育体制の構築」に採択され、将来の医学・医療を支えていく指導的人材を世界に送り出すことを目標としてカリキュラムを充実させていることから、「良好」となった。
- 中期計画「大学院課程進学に必要な学力を修得できるようカリキュラムの充実と改善を図る」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9 項目）のうち、1 項目が「良好」、8 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目が「良好」、5 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画で「アドミッション・ポリシーを周知するための広報活動体制を整える」としていることについて、東北大学のアドミッション・ポリシーや特徴等を広く高校生等に周知し、東北大学への入学意欲を高めるため、ウェブサイトの活用、オープンキャンパス企画の充実、東北大学主催の進学説明会を開催するなど、入試広報活動の企画・実施体制の整備を図ったことにより、オープンキャンパスの参加者数が増加するなどの成果が上がっていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「ISTU (Internet School of Tohoku University) の大学院講義を活用したカリキュラムの整備に努める」について、各研究科において主体的に授業科目の選定とコンテンツの作成を進め、1,800 におよぶコンテンツが作成されていることは、ISTU を活用したカリキュラムの整備が積極的に行われ、インターネットを活用した教育方法の充実が図られている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「ISTU (Internet School of Tohoku University) の大学院講義を活用したカリキュラムの整備に努める」について、平成 21 年度に教育情報基盤センターを設置し、機関リポジトリとの連携等で ISTU 運用環境を整備することにより、ISTU を活用した講義数が飛躍的に伸び、受講者数も着実に増加している点で、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「必要に応じて、専門分野の英語指導を行うとともに、英語による講義のみで大学院修了に必要な単位を確保できる制度を整備する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 21 年度国際化拠点整備事業（グローバル 30）の推進組織として国際教育院が設置され、英語による講義のみで大学院修了に必要な単位を確保できる制度

が拡充していることから、「良好」となった。

- 中期計画「留学生を含む、多様な学生の学力・関心の変動、進路に対応した教育プログラムの充実を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 21 年度に「グローバル 30 事業」の採択を受け、英語により学位取得可能なコースについて、新たに学部 3 課程、大学院 12 課程の設置準備が進展するなど大幅に充実していることから、「良好」となった。
- 中期計画「ISTU (Internet School of Tohoku University) の大学院講義を活用したカリキュラムの整備に努める」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「特色ある点」参照）

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、2 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「必要に応じて学生等による授業評価を導入し、学部長・研究科長等は、その結果を授業担当教員にフィードバックする」について、各学部・研究科等における学生の授業評価結果が、授業担当教員の個別データだけでなく授業科目別の集計データについても送付され、各教員の教育活動の継続的な改善に結びついていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「効果的・効率的な教育研究体制の実現のため、一定期間、教育あるいは研究のいずれかに重点を置くなど、教員間の分業体制の工夫に努める」について、教員の方業体制の整備を進め、教育研究の特性に応じたサバティカル制度を導入していることは、効果的・効率的な教育研究体制の整備に努めている点で、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「図書館機能の拡充を図るために、開館時間の延長、学生用図書の本整備、学習支援情報のデジタル化、情報リテラシー教育の支援、情報検索システムの整備を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 21 年度には有人開館時間が 4,767 時間と国立大学で 1 位となったほか、約 2 万 2,000 冊の学生用図書の本整備を行い、学生用図書整備冊数が平成 16～19 年度の 2.4 倍と飛躍的に増加した。また、利用者数については、平成 20 年度約 53 万名から平成 21 年度約 63 万名に著しく増加していることから、「良好」となった。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期目標「学生の履修相談・進路相談、心身全体の健康維持等への支援体制を整備・拡充する」について、学生の履修相談、進路相談に関して、「クラス担任」、「アドバイザー教員」等を配置し、きめ細かな履修相談・履修指導を行うとともに、キャリア支援センターにおいて、就職・進路に関するガイダンスやセミナーを開催し進路相談・進路指導を行うなどしていることは、学生への支援体制の整備・拡充を意欲的に進めている点で、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が非常に優れている」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「新たな学術領域における研究を推進し、優れた成果の創出に努める」としていることについて、21 世紀 COE プログラム、科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム、グローバル COE プログラム、世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラムに採択された、人文・社会科学から自然科学にわたる幅広い分野の研究を推進し、領域横断的な新たな学術領域において、着実に成果を上げていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「研究水準・成果の向上のために、一元化した研究情報データベース等を用いて、定期的に自己評価を実施・公表する」について、各部局において、研究水準・成果向上のために定期的に全学統一的な評価基準による自己評価を行うとともに、外部評価を実施していることは、意欲的に研究水準、研究成果の向上に努めている点で、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (10 項目) のうち、4 項目が「良好」、6 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、6 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「柔軟で効率的な教育研究体制の充実のため、学内外の教育研究環境の変化、社会の要請、評価等に基づいて、施設の新設・再編や拡充に努める」について、新たな発展領域等に対する人的資源等の戦略的配置を行うため、国際高等研究教育機構、原子分子材料科学高等研究機構を設置し、また、新たな医療技術の開発に努め、東北発の先端医療を世界に発信することを目指し、東北 6 県を包括した未来医工学治療開発センターを設置するなど、教育研究環境の変化や社会の要請等に応じた研究支援体制の整備を図っていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「本学の基礎・応用研究の中から学外の評価に基づいて拠点候補に認定されたプロジェクト研究を強化し、国際研究拠点機能の一層の充実に努める」について、世界トップレベル研究拠点「原子分子材料科学高等研究機構」において、研究施設や研究者配置の整備が進んでいるとともに、平成 21 年度には「東北大学教育研究高度化支援プログラム」によってグローバル COE プログラムに採択された各拠点に対して 70 名、原子分子材料科学高等研究機構に 18 名の支援スタッフを配置している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「各学術領域の特性に応じ、任期制の適切な運用を含めて、教育研究の発展を可能にする任用形態の多様化・最適化に努める」について、平成 20 年度から実施された「ディスティンクイッシュトプロフェッサー」制度は、教授のうち、その専門分野において極めて高い業績を有し、かつ、先導的な役割を担う者に、特別手当を支給することにより、優秀な人材の確保及び活用のための環境の整備を図り、もって大学における教育研究の一層の推進及び社会への貢献に資することを目的とした制度である点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「研究推進・知的財産本部に特許及びプログラム、データベース著作権等創作物の著作権の扱いを集約し、知財管理運用規則 (仮称) に基づく運用を図る。知的財産の活用にあたっては「活用の早期実現」を柱とし、技術移転機関、科学技術振興事業団、民間企業等複数の利用開示手段の充実に努める」について、当該法人の発明届出数、特許出願数については国内の大学でトップクラスであり、平成 20、21 年度

には、それぞれ、32 件、18 件の特許出願済み研究シーズのうち3件、11 件の企業との共同研究契約に発展させている。また、海外の技術移転を進めるための全国の大学の規範となりうる安全輸出管理室の体制を整備している点で、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「本学の基礎・応用研究の中から学外の評価に基づいて拠点候補に認定されたプロジェクト研究を強化し、国際研究拠点機能の一層の充実に努める」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）
- 中期計画「研究推進・知的財産本部に特許及びプログラム、データベース著作権等創作物の著作権の扱いを集約し、知財管理運用規則（仮称）に基づく運用を図る。知的財産の活用にあたっては「活用の早期実現」を柱とし、技術移転機関、科学技術振興事業団、民間企業等複数の利用開示手段の充実に努める」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「特色ある点」参照）

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6 項目）のうち、4 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、5 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「研究推進・知的財産本部を中心として、産学連携促進計画の立案や研究情報等の公開を推進するとともに、未来科学技術共同研究センターと連携して、新技術開発・技術移転等の支援を図る」について、研究推進・知的財産本部を産学官連携推進本部に改組・拡充し、機能の強化を図ったこと、また、特許明細書作成セミナー、特許検索セミナー等を毎年開催するなど、教職員に対する技術移転等の支援・啓蒙活動に努める取組を実施したこと等により、発明件数、技術移転件数、ベンチャー企業数等が着実に増加するなどの成果が上がっていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「公開講座、公開シンポジウム、オープンキャンパス等を通して、地域住民との相互理解に基づく文化的な交流を図るとともに、本学の教育研究活動の公開を積極的に推進する」について、東北大学創立百周年事業として、「東北大学の至宝－資料が語る 1 世紀－」「文豪・夏目漱石 そのころとまなざし」を開催するなど、積極的に地域住民との交流を図り、東北大学の教育研究活動を公開していることは、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 「中期計画に記載されていない措置等」については、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 21 年度に国際教育院を設置し、優秀な教員を国際公募により採用し、また、原子分子材料科学高等研究機構においても国際公募により国外の優秀な研究者を採用し、高度な教育研究の国際拠点づくりを推進していることから、「良好」となった。